

求める会ニュース No. 993

11月全体会報告

11月18日(水) 10:30~12:30

検討事項

1、会の今後について

・残金の処理について

台風などの時期も過ぎ、貸付金の返済も可能となり、残金は1月終了予定時約400万円となる。

案：学生青年センターにカンパ。運動を同じとする団体に支援金のカンパ。りんごの小松さん訪問の助成金、総会後に生産者、消費者を交えての交流会などの意見が出たが、他に意見があればお知らせ下さい。

2、あしの会との話し合いについて(11/20)

配送料、豚、牛肉の部位の扱い、宅配時の生物の扱い、月1回の申し込み時の方法、市有研の野菜の取り決めなどの細かい話し合いを持つ。求める会からは副代表、事務局、部会担当などの各責任者が出席する。あしの会の申込日は厳守する事。

報告事項

① 活動部各担当から

【生産者担当】

・野菜

11月のコンテナ数249。宅配10件。

*畑の様子

大根、蕪、人参、根菜類、葉物、白菜、ブロッコリーなど冬野菜が順調にでき、出荷されます。ネギ、白菜はもう少し経ってからになります。この時期でもミニトマト、万願寺、インゲンが出来、やはり異常気象のようです。

・一色さん周辺の猪は豚熱(トンコレラ)にかかり猪が少なくなりました。獣害が減り、カボチャが出荷されます。てつかぶとという品種で名のとおり皮が硬いそう

です。

・来年3月以後一色さんの野菜を希望される方に近日中、配送日、時間帯の希望を聞くお便りが郵送されるそうです。橋本さんの野菜に関してはあしの会と相談後、みなさんに連絡することとなります。

*卵 寒くなり産卵が減っています。

*米 麴、麴米は前年どおり。

*大豆 味噌の分は確保。

*牛、豚 牛タンの申し込みが多く値上がり予定。

・1月から配送週の変更を考えている。

*果物 りんごの進物用は11月20日締め切りました。

【会員担当】 会員数180名

【事業部】全体会の後、商品の販売をしています。

【広報】印刷は11月24日

【会計担当】

会計監査報告

【渉外担当】

・地域農政フォーラム：年1回11月第3金曜日開催(11/19) 13:00~16:30
勤労会館 1000円

「急速に進む村の崩壊~できるか農村の賑わいの創出」現場からの報告2件(多賀町、淡路市生田村)、農政からの報告。

・ビレッジライフ懇話会：毎月第4土曜日開催(11/27) 15:00~17:00
県民会館 500円

「耕作放棄田の復興作業を通して気付いた様々なこと」豊田圭哉氏(おおや有機農業学校受講生・三木市)

○その他

「ゆうきすと」最終号完成

12月の求める会ニュース配送時に配送。

○お知らせ 12月全体会

12月8日(水) 10:30~12:00
(緊急事態宣言発令時は休会)

食料環境セミナー報告

2021年10月27日(水) 10:30~12:00

「なぜアグロエコロジーなのか」

京都大学経済学研究所

研究員 小林 舞 さん

アグロエコロジーの定義は伝統的知と科学知に基づいた超学際的なアプローチであり、その目的は生産性が高く、生物的に多様で、かつレジリエントな(弾力性、柔軟性がある)小規模農業システムを設計・管理することである。

アグロエコロジーに基づいた農業システムの特徴は、経済的に採算がとれ、社会的に公正であり、文化的に多様であり、環境に過重な負荷をかけないことである。そこから導かれた一連の原則と原則を実現する技術によって構成されている。

なぜ有機農業ではいけないのか？

有機農業のバイブルとされた『有機農業の技術と考え方』(中島 紀一 / 金子 美登 / 西村 和雄 編著)では、資材を多く投入せず、自然と共生する有機農業の基本理念・技術が示されているが、アグロエコロジーは環境面だけでなく、経済、社会、文化の多様性、生産者と消費者の主体性の向上を目指すものであり、現行の農業食料システムで破壊されてきたものを取り戻すための試みであるとする。

アグロエコロジーの原理、原則は

1. バイオマスの再循環を促すことで養分を最適化しバランスのとれた栄養循環を実現する。

2. 有機質の調整と生物活性の促進により植物の育成に最適な土壤状態を確保する。

3. 土壤、水資源、農業生物の多様性の保全・再生を強化し、エネルギー、水、栄養、遺伝的形質の損失を最小限に抑える。

4. 農業生態系における種および遺伝的

形質の時間的な多様性を農場と景観レベルで向上させる。

5. 適切な環境を整え機能的生物多様性の向上を図り農業システムの「免疫システム」を強化する。

6. 農業生物多様性の要素間の有用な相互作用と相乗効果を引き出すことで、重要な生態系のプロセスやサービスを促進させる。

では、今なぜアグロエコロジーの概念が注目されているのか？

アグロエコロジーの実践と運動は、貧困状況をもたらす社会構造に対する抵抗や、持続可能な暮らしのための闘争と密接に結びついており、また気候変動を緩和し、リスクを最小限化、変化に対処するための復元力と強靭性をもたらす。

アグロエコロジーの拡散を阻む障害として、

・土壌の問題 ・農民の知識と情報の不足 ・偏見、イデオロギー ・実践に役立つ知識不足 ・地域条件に見合った研究、農法の開発が必要 ・農民組織の欠如
・経済的な壁 ・国の農業政策 ・インフラ問題——等がある。

普及させるための要因として、

・社会組織、社会運動、水平的な社会プロセスの手法と教育 ・実際に有効な技術 ・政治的機会 ・外部協力者、カリスマ的リーダー ・小農生産物の地域内、地域市場での販売 ・有効な公共政策として食料備蓄の国有化 ・土地の収奪の停止 ・アグロビジネスによる独占の禁止——等がある。

アグロエコロジーは、経済、社会、文化の多様性、生産者と消費者の主体性の向上を目指すもので、地球環境や農業分野にとどまらない俯瞰的な概念だというのがわかりました。

(御影山手G 山下 昌子)

『ゆうきすと』第12号(最終号)編集を終えて



昨年11月に第1回の編集会議をして、最終の編集会議が11月22日なので、ちょうど1年目に出来上がりました。

いままでの『ゆうきすと』発行記録の主なものをあげてみますと、第1号(1980年11月)、第4号(10周年記念号1984年9月)、第8号(15周年記念号1990年11月)、第9号(20周年記念号1994年11月)、第10号(30周年記念号2004年11月)、第11号(40周年記念号2014年11月)、そして今号です。冊子を見ていると、第8号までのものは、全ページを専従であった稲田さんのワープロ打ちで作っているようです。これは大変な作業だっただろうと察します。

今回も原稿を、小池先生、保田先生、会員と生産者の方々から寄せて頂いて出来上がりました。今回は最終号でもありますので、48年の年月を振り返って活動の検証のようなものをお願いしましたが、紙面の都合もあり、またその難しさもあり、十分とは言えません。また、原稿依頼などの人選は編集委員の判断でさせて頂いたこと、お断りとお詫びをしなければなりません。でも、かなり自然体の思いが集まった記念号になったと思っています。

12月号のニュース配布と一緒にお届けいたします。感想などをお聞かせいただければ幸いです。改めてご協力をご感謝いたします。

(『ゆうきすと』第12号編集委員一同)



第37回地域農政フォーラム報告

11月19日に神戸市勤労会館にて「急速にすすむ村の崩壊～できるか農村の賑わい創出～」というテーマで行われた。保田茂先生(NPO法人兵庫農漁村社会研究所理事長)の挨拶に続き、三浦恒夫氏(NPO法人兵庫農漁村社会研究所理事兼研究主幹)より、2020年と2050年の人口推移や、2050年の兵庫県内の人口増減状況、新しい働き方、田園回帰の人の流れなどを含めテーマの狙いについて説明があった。

① 報告「都市から地域おこしにかかわる活動」寺川敏博氏(多可町地域商社 RAKU 代表)

寺川氏は29歳の若い方で多可町に来て2年少々。20～30年後には900近い自治体が消滅すると言われており、それを食い止めるための、定住者の増加⇒人口増加⇒地方にお金が落ちる仕組みづくりについて話さ

れた。

② 報告「持続できる地域めざして～生田村の挑戦」田村伊久男氏(生田地域活性協議会事務局長、一般社団法人生田村常任理事)

生田村は淡路島北部にあり、人口374名で高齢化率49%! その中でそば作り、そば打ち体験、そばカフェを中心に年間3万人の集客、特産物の開発と販売について話された。

③ 報告「農村の現状と新しい農村政策の展望」宮島康彦氏(兵庫県総合農政課長)

兵庫県は山間部が多いため、農業の経営規模が小さく、水田率が全国平均より多いのが特徴、また外部の人材(NPO、学校、企業)を上手に取り込むといった本県の現状を説明。コロナによる働き方、住み方にも変化が出てきているとのこと。

(センターG 茂松 訓子)

12月のカレンダー



12月1日(水) 部会
12月8日(水) 全体会
12月20日(月) 自動引き落とし日

12月全体会議題

- 1.会の今後について
- 2.あしの会との話し合いについて

食料環境セミナー

2022年1月より食料環境セミナー開催日が変わります。第3週土曜日の午後1時30分からになります。

2022年1月15日(土)は橋本慎司さんが講演される予定です。

年末年始の配送

❖野菜・卵

年末 12/28(火) まで
年始 1/6(木) から



❖牛乳

	〈年末〉	〈年始〉
あしの会	12/28(火)	1/6(木)
デルス青山	12/28(火)	1/7(金)
鎌田商店	配送時のチラシをご覧ください	
配送センター	12/24(金)	1/7(金)

❖豚肉(配送週が変わります)

火曜コース 1/25
木曜コース 1/20
金曜コース 1/14

❖牛肉(配送週が変わります)

火曜コース 1/18
木曜コース 1/13
金曜コース 1/21

大豆畑トラスト運動「大豆収穫祭 in 市川町」に参加して

11月21日、大豆畑トラスト運動の「大豆収穫祭」が、市川町上牛尾で開かれました。参加者は大人20人、子供5人、赤ちゃん1人です。求める会からは、池田さん、岡部さん、岡さん、今田の4人が参加しました。

今年初めてトラストに参加する牛尾武博さんの畑で、収穫の説明を受けました。根っこから引き抜くのかと思っていたら、土がついていると脱穀機が故障するので、茎の根元をポキンと折って収穫。畑の半分を占めていた青大豆は、先に地元の中学生たちがトライやるウィークで収穫してくれたので、私たちは残りの半分、大粒大豆の収穫です。



畝に積み上げられた大豆の株を、牛尾さんが次々と脱穀機にかけ、収穫作業は12時前には作業終了。脱穀機の働きはすごいです(写真)。

作業後、希望者が牛尾さんの畑を見学しました。以前、食料環境セミナーで、牛尾さんの講演に感動したことがあり、実際に畑を見てお話を聞くと、日々研究し、工夫して野菜を作っておられることがよく分かりました。今は息子の真道さんが後を継いでおられます。

当日は良いお天気で、紅葉した里山の風景に癒されましたが、大豆畑トラスト運動の事務局を引き受けておられた「あしの会」代表の奥谷勉さんが、今年の収穫祭に姿が見えないのが寂しい限りでした。
(亀井町G 今田裕子)